

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
常総市	石下西部（飯沼地区）	令和4年3月4日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	364.89ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	281.13ha
③地区内における39才以上の農業者の耕作面積の合計	281.06ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	205.55ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	
④地区内において今後中心経営体を引き受ける意向のある耕作面積の合計	36.50ha
(備考)	

注1：③の「39才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
 注2：④の面積は、下記の「(参考) 中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
 注3：アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
 注4：プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

この地区では、ほとんどが畑地域である。水田地域は土地改良後40年から50年を経ており、また、谷津田や沼を整備していることから条件が悪く、遊休化している農地が出てきている。湿地や低地の解消のため盛土を行うとか更なる基盤整備も一案かと思う。北部の馬場地区は土地改良後60年近くたつが野菜栽培の拠点として利用されている。南部の古間木地区では土地改良がおこなわれていないため、細かい筆がほとんどで、農地集約の妨げとなっている。

注：「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

この地域では、13名の中心経営体の農家がありますが、かわり面積はかなり小さい。水田地区では1名の担い手が多く受け持っている。畑では、酪農を営んでいる担い手がかかわっている。いずれも小さい区画の農地を受け持っていることから、集約を図り効率の良い耕作ができるようにしたい。

注1：中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。
 注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

(農地の貸付け等の意向)
アンケートでは貸したい意向の農地については、面積が小さく、条件の良くない圃場がほとんどであり、担い手が受けていないところが多く、相対耕の農地を含め、話し合いのよる情報の共有が必要と思う。
(農地中間管理機構の活用方針)
この地域では中間管理機構利用がほとんどない。立地上集約の難しい地域も多いが、耕作効率を高めるためにも自作や相対耕作している農地を取り込み、利用を進める。
(基盤整備への取組方針)